

Japan Shipbuilding Digest

No.83

トピックス

発行日: 2025(令和 7)年 12 月 18 日

発行: 一般社団法人日本造船工業会

日本シッパード

Nihon Shipyard

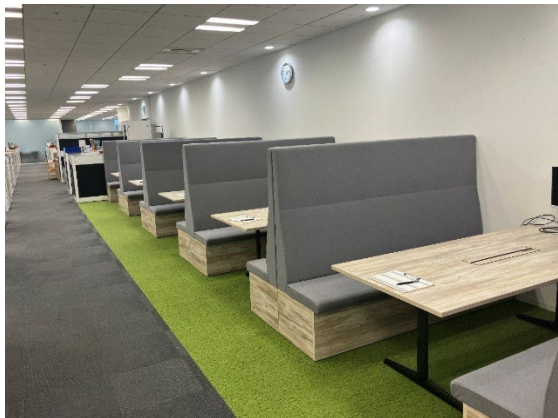
日本シッパード横浜オフィスの改装工事完了

NSY は、社員の働く環境改善の目的で、2025 年 8 月に横浜オフィスの執務室の改装工事を行いました。

同一フロア内でオフィススペースを拡大し、また、他のフロアの一角には専用の会議室スペースを確保しました。この改装工事により、オフィスの一人一人の作業スペースを拡大し、より集中して業務に取り組めることが出来るようになり、新しいアイデアの創出も期待されます。

また、執務室内にはファミレススタイルの打合せスペースや「憩いのスペース」として リラックスできる椅子とテーブルや自販機を新設しました。仕事の合間のリフレッシュや社員同士でコミュニケーションをとる場所として最適なスペースとなっており、社員からも好評です。

業績向上や競争力の強化につながっていくことを期待し、これからも、社員がより良い環境で働けるよう改善に努めていきます。



【打合せスペース】



【憩いのスペース】

今治造船

Imabari Shipbuilding

今治造船、大阪公立大に“今治造船自習室”開設

当社は公立大学法人大阪が実施するネーミングライツ制度に基づき、大学施設の命名権に関する協定を締結し、2025 年 10 月 6 日に大阪公立大学 中百舌鳥キャンパス B4 棟にて「今治造船自習室(英語表記: Imabari Shipbuilding Study Room)」の開設記念式典を開催しました。

対象施設は工学部 B4 棟 2 階 E207 教室で、主に海洋システム工学を学ぶ学生の自習スペースとして活用されています。

本取り組みは、学生が快適に学習できる環境の提供に加え、当社 OB と現役学生が定期的に交流できる機会の創出を目的としています。

当社は共同研究や寄付講座、海事産業に関する出前講義などを通じて大阪公立大学との連携を進めています。今回の取り組みを契機に、産学連携と人材育成を一層推進してまいります。



【関係者の集合写真】



【今治造船自習室】

ジャパン マリンユナイテッド Japan Marine United

哨戒艦「さくら」「たちばな」2隻同時命名・進水式

JMU の艦船事業は、本社機構(営業、企画・開発)、横浜事業所(磯子工場、鶴見工場)、呉事業所艦船修理部、因島事業所、舞鶴事業所を組織構成として、防衛省、海上保安庁、その他官公庁をお客様とする船舶の新造、修理を受け持っています。

11月13日、横浜事業所磯子工場で新型哨戒艦2隻の命名・進水式が実施され、1番艦は「さくら」2番艦は「たちばな」と命名されました。式典では、宮崎防衛副大臣が小泉防衛大臣による命名書を代読しました。2艦同時の命名・進水式は艦艇では初めてとのことです。

哨戒艦「さくら」「たちばな」は、近年、周辺国の海洋活動が活発化しており、警戒監視を担っていた護衛艦が訓練に専念できない、乗員の負担が急増している問題を解決するべく、日本周辺の警戒監視に特化した仕様になっています。武装を絞り込み、無人機も活用することで、乗組員も護衛艦の3分の1ほどの約30人まで減らした、徹底した省人化が特徴です。加えて、艦首部分に横方向へ移動するための「パウスラスター」を装着したことで、多くの護衛艦と異なり、タグボートの補助が無くても自力で出入港が可能になります。

現在、岸壁艀装を行っており、今後、搭載機器類の各種調整・試験、海上公試を行い、令和9年の引き渡しに向けて引続き工事を進めていきます。

<主要目>

- ・基準排水量:1,900 t
- ・全 長:95 m
- ・最大 幅:12.0 m
- ・深 さ:7.7 m
- ・喫 水:4.2 m
- ・乗 員 数:約 30 名



【1番艦進水(後ろに2番艦の「たちばな」が見えます。)】

常石造船

Tsuneishi Shipbuilding

常石造船 造船技能の向上を目指す

「第24回 常石技能オリンピック」を開催

常石造船は、11月15日(土)、高い建造品質の実現と造船技能のさらなる向上を目的に、溶接や塗装など船づくりに欠かせない技能を競う「常石技能オリンピック」を常石工場で開催しました。



【常石技能オリンピック開始を待つ参加者】

今年で24回目を迎える常石技能オリンピックの今年のテーマは「道標」。参加者一人ひとりが技術を磨き、受賞者となり、後輩へその技術を伝承していく「道標」となる思いを込めたテーマです。



【開会の挨拶をする磯田工場長】

開会にあたり、磯田工場長は「本大会は単に技術を競う場ではなく、『互いに学び、認め合い、次世代へつなげていく』ことに意義があります。どれほど時代が変わっても、最前線で“つくる人”の技と誇りは変わりません。皆さんの技が、常石の未来を導く“道標”となることを期待しています」と競技参加者を激励しました。

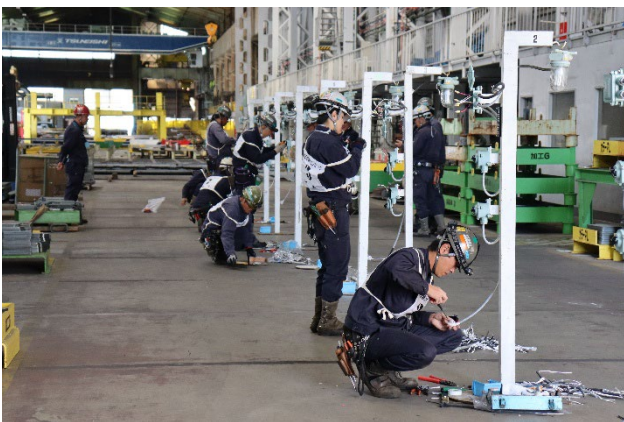
当日は「下向き隅肉溶接競技」、「ガス切断競技」、「薄型立向上進溶接競技」、「玉掛け競技」、「梯子刷毛塗競技」、「電動フォークリフト運転競技」および「配線結線競技」の全7種目の競技が行われました。また、一般参加競技として「高さ目測」および「安全管理者向け安全衛生クイズ」も同時に開催され、約200名が日頃の業務で培った技術を存分に発揮しました。



【梯子刷毛塗競技】



【電動フォークリフト運転競技】



【配線結線競技】



【安全管理者向け安全衛生クイズ】



【安全管理者向け安全衛生クイズ】

常石技能オリンピックは、2001 年に常石工場で第 1 回目を開催。溶接競技 1 種目からスタートし、回を重ねながら徐々に競技種目を増やし、毎年開催しています。また、2011 年より中国工場、2012 年にはフィリピン工場でも開催し、技に磨きをかけ品質向上を図っています。

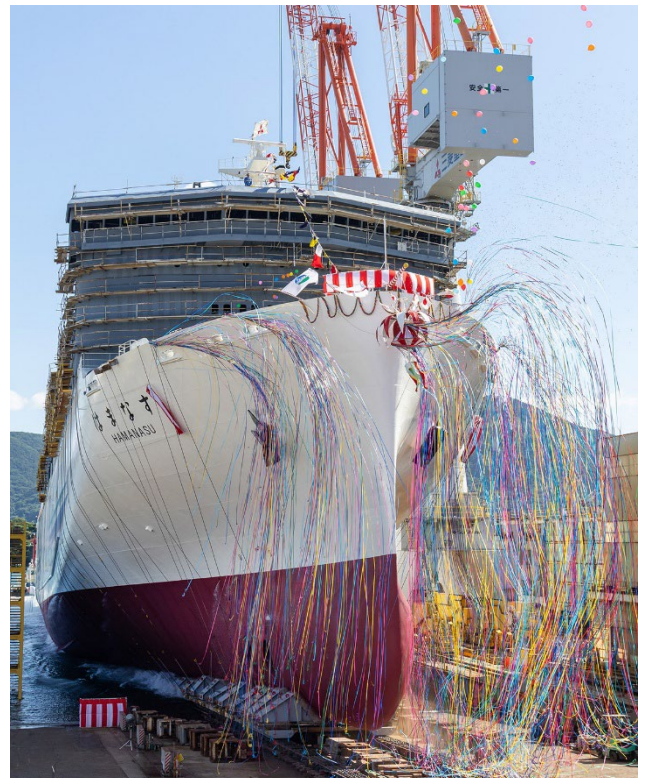
三菱重工業

Mitsubishi Heavy Industries

三菱造船、新日本海フェリーおよび

鉄道建設・運輸施設 整備支援機構向け

大型カーフェリー「はまなす」の命名・進水式を下関で実施



【命名・進水式の様子】

三菱重工グループの三菱造船株式会社(社長:上田 伸、本社:東京都港区、以下、三菱造船)は10月9日、新日本海フェリー株式会社(社長:入谷 泰生氏、本社:大阪市北区、以下、新日本海フェリー)および独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構(理事長:藤田 耕三

氏、本社：横浜市中区、以下、JRTT）から受注した大型カーフェリー2 隻のうち、2 番船の命名・進水式を三菱重工業下関造船所江浦工場（山口県下関市）で行いました。

この大型カーフェリーは、北海道小樽市と京都府舞鶴市を結ぶ航路に就航予定です。式典では、新日本海フェリー 入谷社長により「はまなす」と命名され、一般社団法人日本旅客船協会 船旅アンバサダーの小林希氏による支綱切断が執り行われました。

本船は今後、艤装工事、試運転などを経て 2026 年 6 月に引き渡される予定です。新日本海フェリー向けのフェリーとして、10 隻目の引渡しとなります。

本船はダックテール※1 を有するバツクフロー船尾船型※2 や、垂直船首形状など最新鋭の省エネ船型を採用。ダックテールを有する国内フェリーは、本船の 1 番船に次ぐ 2 隻目です。また、アンチローリングタンク※3 とフィンスタビライザ※4 を組み合わせた省エネ型減揺システムにより、推進抵抗を抑えるなどして、従来船と比べて 5%の省エネが実現可能となっています。

なお、新日本海フェリーと JRTT から受注した 1 番船「けやき」は、11 月 11 日に引き渡し済みです。

現在、国内では、CO₂ 排出量の削減による環境負荷低減、トラックドライバー不足・働き方改革の観点から、海上輸送へのモーダルシフトが進行しており、フェリーの活用が注目されています。三菱造船は今後も、燃費性能・環境性能に優れ、安定運航に資するフェリーを建造していくことにより、ビジネスパートナーとともに多様な課題を解決し、海上交通の活性化と環境保全に引き続き貢献していきます。

※1 船尾付近がアヒルの尻尾のように突き出した船体形状のこと。

※2 船の後部の形状を工夫することで水の抵抗を減少させた船型のこと。

※3 船舶の横揺れを軽減するための装置。船舶の左右方向に遊動する水を有するタンクで、船舶が横揺れする際に、タンク内の水が船舶の横揺れに対して反対方向に動くことで横揺れを軽減します。

※4 船舶の横揺れを軽減するための装置。船体の両側に取り付けられた可動フィンが水中で船が横揺れする方向と反対に揚力を発生させることで、横揺れを軽減します。

■はまなすの主要目

船 種	旅客船兼自動車渡船
全 長	約 199.0m
幅	約 25.5m
総 ト ン 数	約 14,300トン
航 海 速 力	約 28.3 ノット
旅 客 定 員	286 名
積 載 台 数	トラック 約 150 台／乗用車 約 30 台

名村造船所

Namura Shipbuilding

大型船見学会を開催しました！

2025 年 11 月 23 日(日)、当社伊万里事業所において、一般の方を対象とした大型船見学会を開催いたしました。

当日は、地元や近隣の方々をはじめ、県外など遠方からお越しいただき、約 7,000 名の皆様にご来場いただきました。

組立工場やドック、完成間近の大型貨物船の船内など船舶の建造工程に沿った見学に加え、当社の歴史を辿る資料館や造船重機の展示、溶接ロボットや VR 体験などのお子様向けアトラクション、伊万里市内高校生による木工品販売と書道部によるパフォーマンス、社内クラブ活動部員による各種出店、佐賀大学写真部が撮影した船づくり写真の展示会、船舶および橋梁の竣工実績の紹介など、バラエティに富んだ盛りだくさんの内容で、船づくり・橋づくりのダイナミックな迫力と地元貢献しながら日本や世界を舞台に活躍する当社、および そこで働く社員たちの活き活きとした様子を体感していただくことができました。

参加者からは、「船がとて大きくて迫力があった！」「大人になったら船をつくりたい！」「楽しかったのでまた来たい！」といった声を聴かせていただき、対応したスタッフも、企業として社会貢献することの重要性や船づくり・橋づくりへの誇りを改めて再認識する良い機会となりました。

当社は、経営理念「存在感」のもと ESG(環境・社会・ガバナンス)の取り組みを推進しており、お客様にとって、働く人にとって、地域にとって、日本にとって、世界にとって、必要とされる企業であり続けると共に、地域の方々をはじめとする皆様に、今後とも当社の魅力を発信してまいります。



【入退場門の様子】



【乗船見学の様子】



【地元高校生による書道パフォーマンス】

新来島どっく

Shin Kurushima Dockyard

第 18 回新来島感謝祭開催報告

雨にも負けず笑顔あふれる一日 ～来場者 5300 名～

新来島どっくでは、地域の皆さまへの感謝と社員・家族との交流を目的とした工場開放イベント「第 18 回 新来島感謝祭」を、11 月 9 日(日)に開催しました。当日はあいにくの雨模様でしたが、地域住民や社員、そのご家族など総勢約 5,300 名が来場、会場は熱気と笑顔に包まれました。

感謝祭は、当社が地域とともに歩む姿勢を示す恒例行事であり、普段は立ち入ることのできない造船工場を開放することで、ものづくりの魅力を広く知っていただく機会となっています。メインイベントとして行われた「建造船見学会」では、巨大な船体を間近で見学し、「迫力に圧倒された」「雨でも来てよかった」といった声が寄せられました。



【最新の RORO 船見学会】

また、子どもから大人まで楽しめる催しも盛りだくさん。少し肌寒い天候をものともせず、お子さんたちがプールではしゃいでいました「魚のつかみ取り」や、「餅まき」では、威勢の良い掛け声とともに餅が宙を舞い、会場は歓声に包まれました。「福引抽選会」では豪華景品を目指して多くの方が固唾をのんでおられました。豪華景品当選者には大きな拍手が送られました。さらに、地域の幼稚園によるかわいらしいダンスパフォーマンスは、雨空を吹き飛ばすような元気な演技で観客を魅了しました。



【魚のつかみ取り】



【模擬店】



【餅まき】

社員による模擬店も大人気で、焼きそばやたこ焼きなどの定番メニューから、地元食材を使った特製料理まで、来場者の舌を楽しませました。模擬店を担当した社員からは「雨の中でも地域の方々と直接触れ合える貴重な機会」との声が聞かれ、笑顔での接客が印象的でした。

今回の感謝祭は、天候に左右されることなく、地域と企業が一体となり、互いの絆を深める場として大きな意義を持ちました。当社は今後も、ものづくりを通じて地域社会に貢献し、皆さまに愛される企業を目指してまいります。

新来島サノヤス造船

Shin Kurushima Sanoyas Shipbuilding

「新来島サノヤス造船文体祭ふれあいフェア 2025」を開催

2025 年 10 月 18 日、当社製造所にて恒例の「新来島サノヤス造船文体祭ふれあいフェア 2025」を開催いたしました。本フェアは毎年、従業員や協力事業所の皆様、そのご家族、そして地域住民の皆様へ日頃の感謝をお伝えするために企画しているイベントです。当日の天気は雲一つない晴天に恵まれ、約 900 名もの方々にご来場いただき、会場は終始にぎわいを見せました。

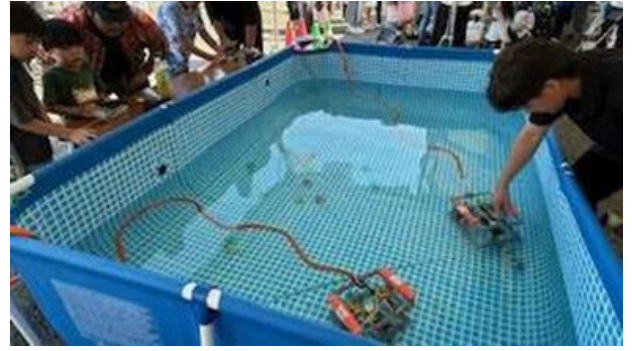
特に注目を集めたのは、2 年ぶりに実施された船内見学です。約 600 名の方々が参加し、建造中の「サノヤスウルトラマックス」の最新バージョンである 64,000 トン型散積貨物船を間近で見学しました。普段は立ち入ることのできない船内に足を踏み入れ、巨大な船体や最新の機装設備を目の当たりにした来場者は、造船の迫力と技術力に強い関

心を寄せていました。従業員の家族や地域の皆様にとって、当社の造船技術をより深く理解し、誇りに感じていただける貴重な機会となりました。



【船内見学の様子】

また、今年は長崎総合科学大学工学部船舶工学コースの皆様による展示ブースも設けられました。水中ロボット「トレジャーハンター」の ROV（遠隔操作型無人探査機）の操縦体験は、子供たちを中心に大好評で、夢中になって操作する姿が多くみられました。未来の海洋探査技術に触れることで、造船をはじめ船舶海洋分野全般の可能性や魅力を感じていただけたのではないのでしょうか。



【操縦体験の様子】

会場内では従業員有志による模擬店や地域の人気キッチンカーも並び、焼きそばや唐揚げ、アイスクリームなど多彩なメニューが来場者を楽しませました。昼時にはどの店も長蛇の列となるほどの盛況ぶりで、従業員が自ら企画・運営する模擬店は、職場の仲間同士の絆を深める場ともなりました。

さらに、恒例の抽選会も開催され、豪華景品を巡って会場は大きな歓声に包まれました。子供から大人まで幅広い世代が参加し、当選者が発表されるたびに拍手と笑顔が広がり、最後まで活気に満ちた 1 日となりました。

イベント終了後には「楽しかった」「普段見ることのできない船内を見られて興味深かった」「また来たい」といった温かい声を数多くいただきました。

今後も新来島サノヤス造船は、地域とのつながりを大切にしながら、より良い職場づくりと技術力の向上に取り組んでまいります。